

110年の時を超えて ～「川渡り神幸祭」の踊り山笠（福岡県田川市）が ルーツの地「中津祇園」（大分県中津市）で舞踊を披露～

平成29年7月28日（金）から30日（日）まで開催される大分県指定無形民俗文化財「中津祇園」（大分県中津市）。初日にあたる28日に、福岡県指定無形民俗文化財「川渡り神幸祭」（福岡県田川市）橘地区の踊り子による舞踊披露が行われます。

今回の奉納は、田川地域における踊り山笠文化の再興のきっかけ作りとするとともに、580年以上の歴史を有する「中津祇園」と各地域の祭りとの文化的なつながりを再認識する機会となるもので、長い祇園祭の歴史の中でも初めてのルーツの地での舞踊披露となります。

舞踊は、110年前（明治40年、1907年）に先代の踊車を田川地方へ売却した、中津市・堀川町の踊車で披露します。

○背景

450年以上の歴史を誇る「川渡り神幸祭」では、大正時代に中津祇園から踊車の文化（山車と囃子）が伝わってきました。最多で6台の踊り山笠が参加していましたが、老朽化や人手不足、経費の問題で、踊り山笠は幟山笠へと姿を変えていき、その中で唯一残っている橘地区の踊り山笠も存続の危機にさらされています。近年、中津祇園から伝わった踊り山笠の文化の灯を消してはならないと、橘地区では様々な取り組みを行っています。

○日時

平成29年7月28日（金）21時ごろ（「お宮入り」終了後） 最長20分程度

○場所 關無浜神社境内（大分県中津市角木447）



川を渡る「踊り山笠」（昭和40年代）
引用：Youtube より



橘地区に唯一残る「踊り山笠」



今年の川渡り神幸祭（橘地区の幟山笠）



明治40年に先代の踊車が田川地方に
売却された中津祇園「堀川町」

○歴史的背景

【中津サイド】

- ・明治40年（1907年）に堀川町の先代の踊車（欄間以外）が田川へ33円で売却される。
※ 売却先の地区名は不明であるが、年代から推測すると橘地区の可能性あり。今年新調された橘地区の幟山笠に110年前（明治40年）の欄間が使用されている。
- ・昭和初期に、船場町踊車が「川渡り神幸祭」番田地区へ1,010円で売却される。
※ 今年新調された番田地区の幟山笠に、船場町踊車の欄間が使用されている。
- ・昭和27年に、塩町踊車が福岡県田川郡川崎町へ50万円で売却される。
※ 火災で焼失し、現存していない。

【田川サイド】

- ・大正初期に踊り山笠が登場する。中津祇園から伝わったとされており、最盛期には6基の踊り山笠が出駕していた。しかし、幟山笠への切り替えが進み、踊り山笠は橘地区のみ存在している。（橘地区からは、幟山笠と踊り山笠の2台が参加している）
- ・幟山笠に切り替わっても、かつて踊り山笠であった地区は、現在でも中津祇園から伝わった囃子を奏でている。
- ・今年、番田地区と橘地区が幟山笠を新調。番田地区は船場町踊車時代の彫刻、橘地区は110年前の彫刻を受け継いでいる。また、橘地区の踊り山笠は40年ぶりに夜の巡行を復活させた。

■問合先 中津市観光推進課（☎0979-22-1111・内線321）